

第4学年桜組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 河野 直美

1 日時・場所 令和4年11月9日(水) 第2校時(9:35～10:20) 自教室

2 単元名 みんな笑顔 みんな家族の住みよい町に 絆サークル大作戦!  
 ～心のキャッチボールを自分から～

3 単元の目標

1年生や高齢者、障がいのある方との交流やイベントを通じて、様々な立場の人の思いや暮らしについて考えを深め、「心のバリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の考え方の重要性を理解し、誰もが安心して暮らすことができる笑顔いっぱいの地域社会の実現に向けて、自分ができることをしていこうとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分や1年生、高齢者、障がいのある方など、誰もが安心して笑顔で暮らすには、心のバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方が重要であることを理解している。 ② 1年生や高齢者、障がいのある方の実情や、暮らしを支援する方法を課題解決に応じた適切な方法で情報収集している。 ③ 交流や活動を通じた自分の行動の変容は、探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	① 誰もが安心して暮らすことが実現できていない身近な現状から問題を見付けだし、課題を明らかにしている。 ② 課題を解決していくために必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集している。 ③ 問題状況における事実や関係を、比較したり分類したりしながら解決に向けて考えている。 ④ 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 課題解決に向けて目的意識を持ち、身近な人と力を合わせて意欲的に探究活動に取り組もうとする。 ② 誰もが安心して暮らすことができる笑顔いっぱいの地域社会を目指して、異なる考えも生かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③ 自分も地域社会の一員であることを自覚し笑顔いっぱいの地域をつくるために、自分ができることを考え、進んで行動しようとしている。

5 指導観

(1) 児童について

児童はこれまでのESDの学習で、金子の町の人や他学年と関わる体験をしている。3年生の総合的な学習の時間「えがおいっぱい 自まんのふるさと」では、一宮神社の楠木や河川敷の桜、小女郎狸踊りなど、地域にある昔から大切にされてきたものについて調べ、その良さを下学年に伝える活動を行った。見学や町歩きに行ったり、金子の伝説について地域の方からお話を聞いたりする活動は実施したものの、感染症拡大予防措置のため、それ以上の体験活動を保障することができず、伝統を守ってきた地域の人々の思いに十分触れさせることができなかつたのが現状である。1年生だった令和2年3月より感染症対策がとられている本学年の児童にとっては、小学校生活の大半を直接体験が制限された中で過ごしている。

本学級の児童（29名）は、好奇心旺盛で発想が自由である。比較的、マイペースで個性の強い児童が多いため、話し合いの際には多様な意見が出て盛り上がる反面、互いに譲れないところがある。クラスで一つのことを成し遂げる際には、「歩み寄って折り合いをつけること」ができないことが、年度当初にはよくあった。

それらは、自分と違う考えや異なる立場の人と共に何かを成し遂げ、達成感を味わった経験の少なさが影響しているように思う。異なる考えの他者との間に、無自覚な心のバリアがあり、歩み寄る必要性を感じていないようにも思えるときがある。

そこで、本学級の児童には自分と異なる考えや立場の人に、思い入れを持って関わる体験をさせたいと考えた。思い入れを持って関わる事ができれば、その人たちの気持ちや事情にも思い入れを持ち、広く深く考えて歩み寄ろうとするのではないかと考えたからである。

## (2) 単元構成について

ESDカリキュラム「笑顔いっぱい 住みよい町に」の中心となる本単元を組むにあたっては、道徳科「口で歩く人」の学習を起点に、主人公である宇都宮辰範さん（愛媛県出身）の生き方を描いたアニメ動画を視聴する機会を設けた。ベッド式車いすの宇都宮さんが、その場で出会った人に声を掛け、力を借りることを繰り返しながら、日本中を旅するお話である。児童は宇都宮さんの生き方に触れ「つながって生きるっていいなあ」「信じ合い支え合うことができれば心配がなくて安心だ」などの思いを感じ取っていった。

活動の一次である単元の計画段階では、「イベントを企画して障がいのある人や高齢者、小さい子とつながり、自分も笑顔でハッピーになりたい」「みんなが関わり合える、みんなが家族の住みやすい町にしたい」などの意見が出てきた。そこで、単元名に児童の思いを入れ「みんな笑顔 みんな家族の住みよい町に 絆サークル大作戦！～心のキャッチボールを自分から～」とした。活動の内容や流れも児童と共に話し合い、1年生や高齢者との絆を深めるためのイベントは「オリンピック」を、障がいのある方とは「交流会」を複数回することを決めた。そういった絆をつくる活動を通して、相手の事情や気持ちを知り、考えを深めていく中で、施設や町の中にあるバリアや、自分の中にもある心のバリアに気付かせたいと考えた

2次では、手作りイベント「オリンピック」の企画・運営・実行を、3次では、障がいのある方との交流会や疑似体験、調査等を通して住みよい町についての自分の考えを深める。単元の終末の4次では、絆を深めた〇〇さんたちや自分の笑顔のため、バリアフリーの金子の町を実現していくためにできることを考え、実行していく単元を構成した。本単元の中で特に児童に気付かせたいことは以下の四つである。

- 1 人と心がつながると自分の世界が広がり、何より楽しいこと。
- 2 人にはそれぞれの事情があり、できることも思いも違う。互いを分かり合おうとする姿勢が大切であること。
- 3 変えられない有形のバリアは、心のバリアフリーで補っていけばよいこと。
- 4 バリアをつくらぬユニバーサルデザインの考え方が進めば、住みやすい町に近付いていくこと。
- 5 自分一人ではできそうもないことも、仲間がいればできること。

これらが実感できるような活動を工夫する中で、自分から人に関わろうとする力、社会の一員として自分にできることをしていこうとする実践力を養っていききたいと思う。

## (3) 指導について

指導に当たっては、豊かな関わりのある直接体験と児童の考えや願いを聞く場を多くとるようにし、思い入れを持って活動に臨めるようにしていきたい。感染防止のため学年で集まれない際には、タブレットを活用して多数決をとったり、プロジェクトチームを作り希望者が集まって話し合いを行ったりするなど、学習形態に工夫を加える。また、新居浜市社会福祉協議会内にあるボランティアセンターに協力を仰ぎ、様々な体験活動や講師招へいをコーディネートし

てもらうことで、児童の思いや願いを実現していく一助としたい。

本時につながる1年生や高齢者と絆を深めるための手づくりイベント「きずな・友じょうオリンピック」は、児童との相談の上、勝ち負けのイメージが強くなりすぎない「きずな・友じょうパラリンピック」に改名した。小さい子から高齢者まで、誰もが楽しめる競技は何かを話し合う中、児童から「ボッチャ」というアイデアが出たことで、パラリンピック競技に注目。パラスポーツ指導員の講師から4種類のパラ競技を教えていただいた後に、この改名をすることとなった。

また、児童に「パラリンピックをするのに不安なこと・心配なこと」のアンケートをとり、それらを解消するための手立てを話し合う機会も設けた。そして「絆・友情・笑顔を増やすパラリンピックにする」という目的に加え「自分たちの不安や心配事をなくす」という目的も達成できる作戦を考えさせた。児童が考えた作戦は「心を伝えよう声かけ作戦」「安心ルール作戦」「ユニバーサルデザイン(UD)作戦」「もりあげ・キャラクター作戦」である。安心ルール作戦の中で、高齢者疑似体験を、UD作戦の中で、学校のバリアフリー・UDさがしの体験活動も組み込むようにした。

1回目のパラリンピックを終え、自分の思いや作戦を振り返り整理する時間をとった後の授業が、本時である。本時は第2回パラリンピック(1年生・高齢者)に向けて、作戦をバージョンアップしていく活動を行う。考えるための材料として使う情報は、前時まで作成した作戦座標軸やPMIシート、そして今までの調べ学習で集めた情報を背面掲示しておき、それらも活用できるように考えている。

本時において、対話の場を充実させる指導の工夫は以下の四つである。

- 1 ガイドの児童が形式的に話し合いを進行(自分たちで解決するという心情面での対話の促進)
- 2 提案者・相談者の役割(友達の相談・提案に応えたいという心情面での対話の促進)
- 3 思考ツール・ICTによる可視化(思考の整理と対話への参加の促進)
- 4 教師が話し合いの中に入る(対話の質を上げる切り返し)

これらを通して対話の質を上げることにより、本校の研究主題である「自ら学び 豊かな関わりの中で伝え合い 高め合う児童の育成～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～」に迫りたい。

## 6 指導計画 (70 時間)

次	主な活動 (時数)	知	思	態	評価方法
1 (7)	○ 金子の町に住むどんな人を笑顔にしてどんな町にしたいか話し合い、活動名を決める (3)		①	①	ワークシート・観察
	みんな笑顔 みんな家族の住みよい町に 絆サークル大作戦! ~心のキャッチボールを自分から~				
	○ 1年生・高齢者・障がいのある方と絆を深め、住みよい町をつくるアイデアを出し合い、活動計画を立てる。(4)			②	ワークシート・観察 きなこもちカード 以下④カード
2 (30)	○ 誰もが安心して楽しめる手作りイベント「きずな・友じょうパラリンピック」を成功させて1年生や高齢者との絆を深める。 ・ 自分たちが企画するパラリンピックの目的や概要についてアイデアを出し合う。 ・ パラスポーツ体験 (2回) (4)			② ①	感想用紙・観察

	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラリンピックをする際の、心配や不安を出し合い、それらの解消法について話し合う。(2)</li> <li>不安解消とパラリンピック成功に向けて自分たちがしていきたい作戦を考える。(2)</li> <li>作戦に関する調べ物をし、作戦の準備をする。(2)</li> <li>パラリンピックの競技内容を決める。(1)</li> <li>高齢者疑似体験 (2)</li> <li>ルール等、運営上の話し合いをする。(4)</li> <li>接し方のコツをプロに教えてもらう。(2)</li> <li>学校のバリアさがし・UDさがし (2)</li> <li>地域福祉センターのUDさがし (希望者)</li> <li>パラリンピックで伝えたい心について話し合い、作戦にそって準備を進める。(2)</li> </ul>	②	①	②	ワークシート・観察
		①	③	②	ワークシート・観察
		②	②		観察・㊦カード
		①	③		観察・㊦カード
		②	②		感想用紙・観察
		①	③	①	観察・㊦カード
		②	②		感想用紙・観察
		②	②		ワークシート・観察
		②	②		ワークシート・観察
		①	④	③	観察・㊦カード
	<b>きずな・友しようパラリンピック ～心を行動に～</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回絆・友情パラリンピック (1年生) (2)</li> <li>報告会をして、自分たちの活動を振り返る。(1)</li> <li>高齢者の方も参加する次のパラリンピックに向けて、報告会で出たことを生かして作戦をバージョンアップする。(1) <b>(本時)</b></li> <li>第2回絆・友情パラリンピック (1年生+高齢者) (2)</li> <li>報告会をして、自分たちの活動を振り返る (1)。</li> </ul>	①	④	③	感想用紙・観察
		③	①		観察・㊦カード
			③	②	観察・㊦カード
		①	④	③	感想用紙・観察
		③	①		観察・㊦カード
3 (20)	<p>○ 交流会を通じて仲良くなった障がいのある方 (視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由のある方) の、思いや願い、日常などを知り、金子の町の住みやすさを調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流会の内容を話し合う。(1)</li> <li>交流会の準備をする。(2)</li> <li>第1回交流会 (お楽しみ会) (1)</li> <li>報告会をして、自分たちの活動を振り返る。(1)</li> <li>第2回交流会について話し合う。(2)</li> <li>第2回交流会 (お話し会) (2)</li> <li>交流会を通じて考えたことを話し合う。(2)</li> <li>今、気になっていることを調べる(1)</li> <li>アイマスク体験・聴覚障がい者体験・車椅子体験(2)</li> <li>金子の町のバリアさがし・UDさがし(4)</li> <li>調査を基に住みやすい町について話し合う。(2)</li> </ul>				
				①	観察・㊦カード
				①	観察・㊦カード
			③	③	感想用紙・観察
		③	③	②	観察・㊦カード
				①	観察・㊦カード
			③	③	感想用紙・観察
		③	②	②	ワークシート・観察
		②	②	①	観察・㊦カード
		②	②	①	感想用紙・観察
		②	②	①	感想用紙・観察
		①	③	②	観察・㊦カード
4 (13)	<p>○ みんな笑顔 みんな家族の住みよい町にするために、自分たちにできることを考え実行する。(13)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことの発信(地域・市役所・保護者等)</li> </ul> <p>【        チョボラ        心のバリアフリー宣言        シトラスリボン運動        など        】</p>	①	③	①	ワークシート・観察
		②	④	②	㊦カード・成果物
		③		③	

## 7 本時の指導

- (1) 目標 作戦座標軸やPMIシートに整理された情報を活用し、高齢者も参加する2回目のパラリンピックに向けての作戦を、異なる考えも生かしながら再構築することができる。
- (2) 本時の主な言語活動 作戦をバージョンアップするために提案者・相談者から出された話題を、ガイドの児童を中心に話し合う。教師は児童の話合いの輪の中に入り、対話の質を上げる発言に努める。
- (3) 準備物 タブレット・PMIシート
- (4) 本時の展開

学習内容	時間	主な発問 (○) と予想される児童の反応 (・)	○指導上の留意点 ◎評価	
1 第1回パラリンピック報告会の内容を振り返る。	5分	○ パラリンピック報告会ではどんなことを感じたり考えたりしましたか。 ・ 1年生の笑顔が何よりうれしい。 ・ ○○作戦がもうひとつだった。	○ 第1回パラリンピックを振り返ったPMIシートや、作戦座標軸などを話合いに活用できるよう、内容を想起させる言葉を掛ける。	
<b>自分たちの心を行動にうつし、笑顔いっぱいの第2回「きずな・友しようパラリンピック」になるよう、作戦をバージョンアップしよう。</b>				
2 提案者・相談者の話を聞き、その内容について話し合い、作戦をバージョンアップする。	30	(予想される相談、提案) ● 自分から話し掛けることが難しかった。話せたけど、絆が深まるまでにはいかない。どうすればいい？ ・ 雑談の内容をいくつか考えておくのはどう？ ・ 水分タイムのときに、カードを引いてそのお題について話をするという方法もあるね。 ・ 友達と一緒に話し掛けるところからスタートするといいかも。	○ これまでに話し合った、来てくれる人に伝えたい心や絆の捉え方は背面掲示しておき、必要なときに活用する。  ○ 形式的な司会はガイドの児童に任せる。  ○ 相談・提案内容によっては、思考ツールを使ったり、小グループで話し合い等の学習形態を変えたりする。  ○ 教師も話合いに参加し、作戦座標軸に目を向けさせたり、反論したり、視点を広げるキーワードを強調したりして、対話の質を高める発言を工夫する。	
		一緒に話し掛け作戦 雑談・質問作戦		● ルールを変えたらどうだろう。  ● 高齢者の方が来るのでUD作戦を強化するのはどうだろう。 ・ 疲れたら休める椅子がベンチのようにあるといいね。 ・ トイレの段差をなくしたいけど、なくせない。「気を付けて」と一言、言うのはどうかな。
		ベンチ作戦 バリアフリー声掛け作戦		
3 自分たちが伝えたい心が行動に移せる作戦になっているか話	5	○ 伝えたい心が行動に移せる作戦になっているだろうか。 ・ 思いやりの心を伝えるのにUD作戦の椅子はばっちりだよ。	○ 自ら行動することの大切さに気付くよう、自分	

し合う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦がよくても、行動しないと心は伝わらないよ。やってみることが大事だね。</li> </ul>	<p>たちが掲げたパラリンピックの副題～心を行動に～を意識できる言葉掛けに努める。</p>
4 「きなこもち」による学習の振り返りをタブレットを活用してする。	5	<p>○ 「きなこもち」で今日の学習を振り返ろう。</p> <p>き・・質問ができたので作戦がよくなったよ。</p> <p>ち・・○○さんは、高齢者の方のことを最優先に考えて発表していたよ。</p>	<p>◎ 作戦座標軸やPMIシートに整理された情報を活用し、高齢者も参加する2回目のパラリンピックに向けての作戦を、異なる考えも生かしながら再構築することができる。【思③】観察・きなこもちカード</p>

## 8 事後の指導

第2回「きずな・友じょうパラリンピック」においてバージョンアップされた作戦が実行できるようにし、2回目のパラリンピックについても作戦座標軸やPMIシートで自分たちの活動を振り返る機会を設ける。

## 9 授業評価の視点

### (1) 授業構成力

作戦をバージョンアップさせるための話合いの場の持ち方や、作戦座標軸や背面掲示物など、情報を可視化したものの活用は、対話を活性化し課題解決に有効であったか。

### (2) 授業実践力

児童の話合いの中に入り、質問したり、反論したり、キーワードを強調して話したりする教師の発言は、思考を具体化させ、対話を深めることにつながったか。